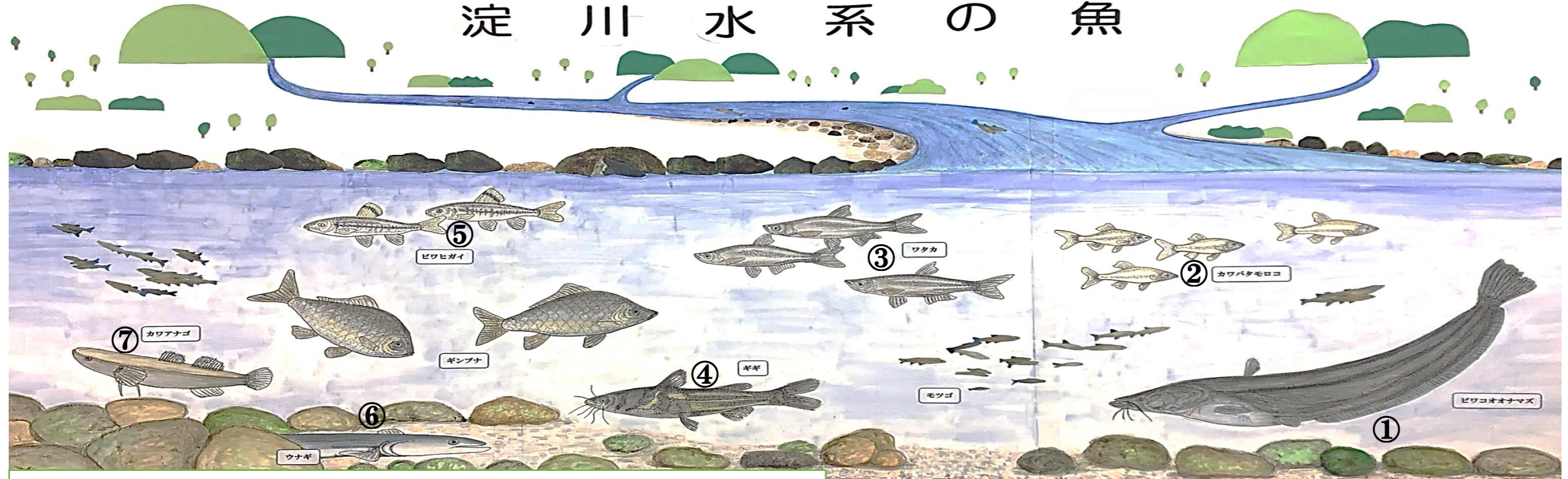


大阪市水道記念館より琵琶湖・淀川水系に生息する希少な魚たちがやってきました。学習館に仲間入りした魚たちを紹介します。

淀川水系の魚



①.ビワコオオナマズ (ナマズ科) 絶滅危惧種

琵琶湖から淀川に生息しているナマズです。
最大で約 120 cm まで成長し、大きな口でブラックバスやブルーギルも食べます。
職員の独り言:
学習館で 1 番目か 2 番目エサをよく食べるので、エサ(小魚やスジエビなど)の補充が大変です。

②.カワバタモロコ (コイ科) 絶滅危惧種

水路やため池など流れのほとんどない水域を好みます。
成長しても 6cm 位の小さくてかわいらしい魚です。
水生昆虫やアオミドロなどなんでも食べます。

③.ワタカ (コイ科) 絶滅危惧種

ヨシの繁茂した浅いところに多く住み、産卵は 6-7 月頃浅いところの水草などに卵を産みつけます。
体色は銀白色で、背が緑青色です。頭部は小さく口が大きいです。
成長に伴い、食べるえさは草食性が強くなります。
鱗がはがれやすいので、取扱いは慎重にしています。

④.ギギ (ギギ科)

ナマズの仲間、ひげの本数がナマズより多いです。
昼は川岸や湖の岩の隙間にひそみ夜にエビや小魚などのえさを食べます。
ナマズ 2 対 4 本に対して、ギギは 4 対 8 本生えています。
身の危険を感じると骨と骨をこすり合わせて、音を出します。

⑤.ビワヒガイ (コイ科)

主に湖や川の底を遊泳していて、水生昆虫や小型の巻貝を好んで食べます。
タナゴの仲間と同じようにドブガイなどの二枚貝に産卵します。

⑥.ウナギ(ウナギ科)

体にフィットする筒の中や砂利の下などが大好きで、夜行性。
細い体は、ぬるぬるしていて、一度水槽から逃げ出すと、
捕まえるのが厄介な、食べるとおいしい人気者。
隠れていることが多いのでなかなか見られないけど
正面から見ると愛嬌のある顔をしています。

⑦.カワアナゴ (カワアナゴ科)

河川の下流に生息しています。昼間はじっとして夜に活動します。
アナゴと名前がついていますが、
アナゴの仲間ではなくヨシノボリの仲間です。
ヨシノボリの仲間なのに、胸びれが吸盤状になっていません。